

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会(第 28 回)

日時：令和 3 年 12 月 19 日（日）10:00～12:00

場所：西之丸会議室

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事 令和 4 年度の二之丸庭園の修復整備について <資料 1, 2 >
- 4 報告 名勝名古屋城二之丸庭園整備計画について
- 5 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会(第28回)出席者名簿

日時：令和3年12月19日(日) 10:00~12:00

場所：西之丸会議室

(敬称略)

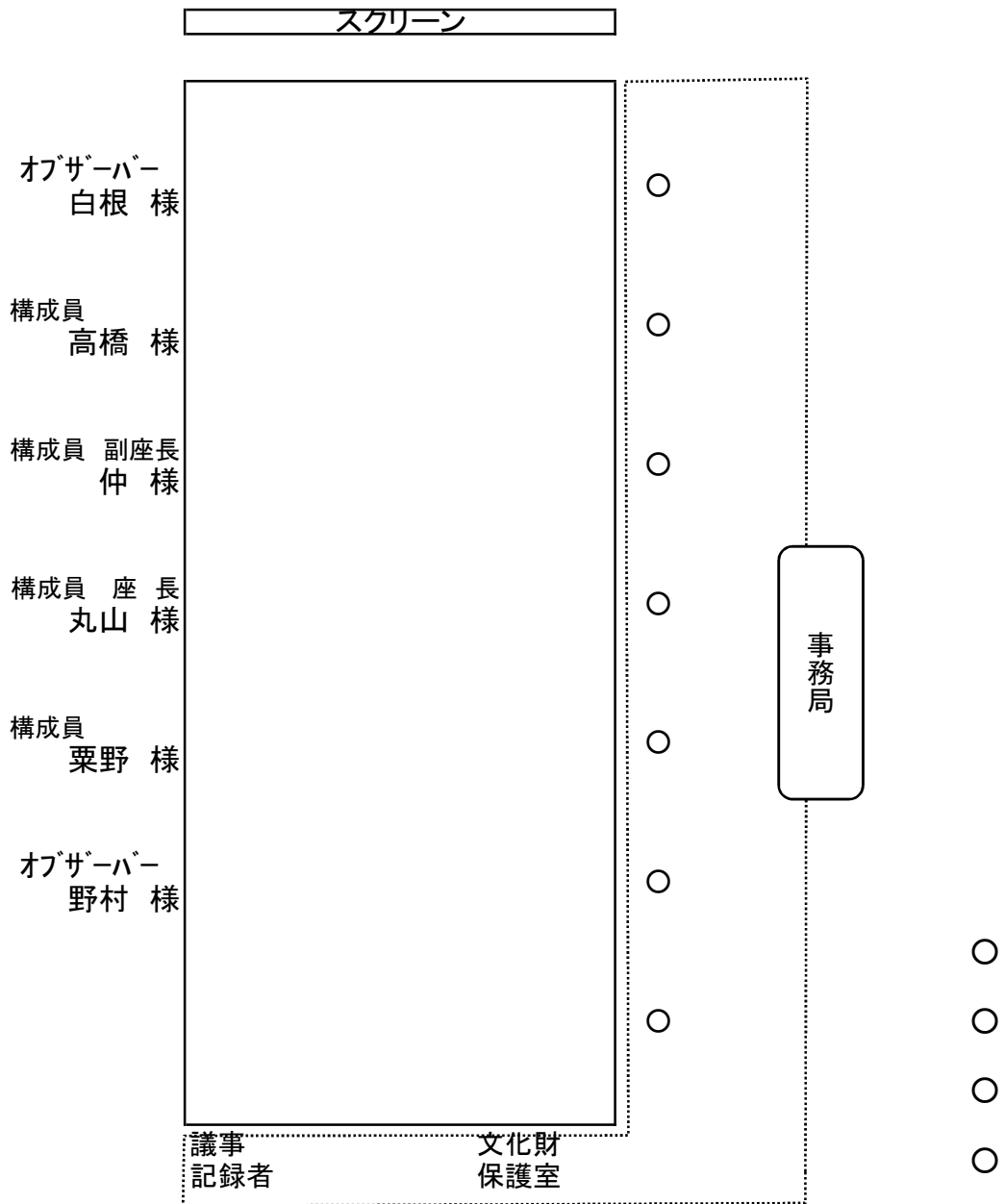
■構成員

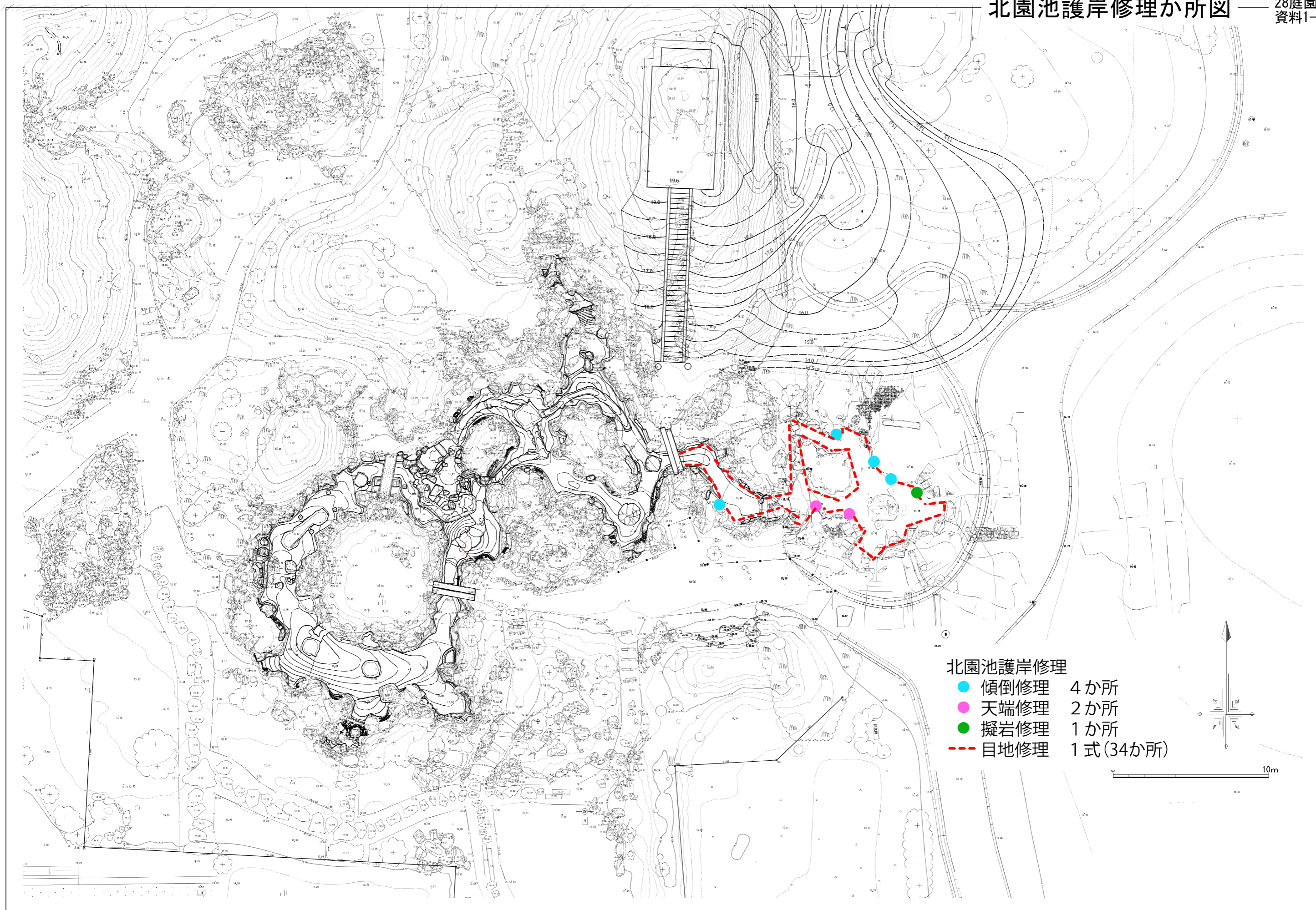
氏名	所属	備考
丸山 宏	名城大学名誉教授	座長
仲 隆裕	京都芸術大学教授	副座長
栗野 隆	東京農業大学教授	
高橋 知奈津	奈良文化財研究所研究員	

■オブザーバー

氏名	所属	備考
野村 勘治	有限会社野村庭園研究所	
白根 考胤	中京大学教授	

庭園部会 第28回 座席表

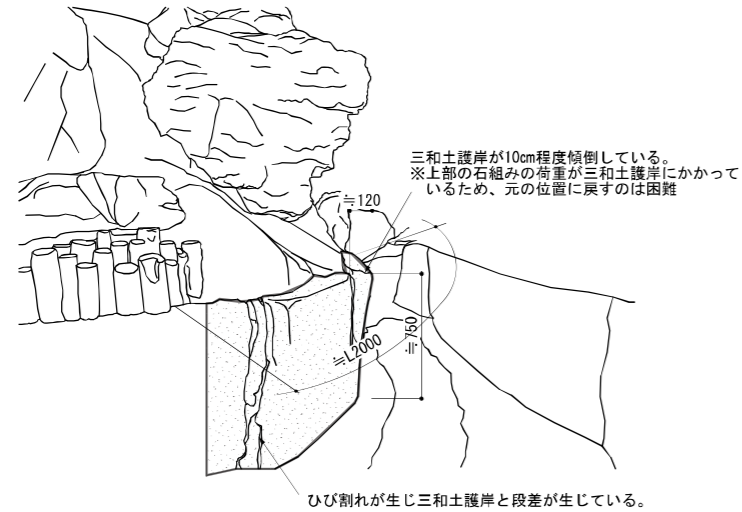




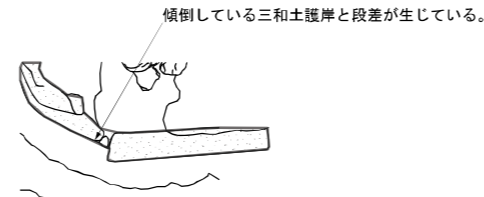
- 北園池護岸修理
- 傾倒修理 4か所
 - 天端修理 2か所
 - 擬岩修理 1か所
 - - - 目地修理 1式(34か所)

10m

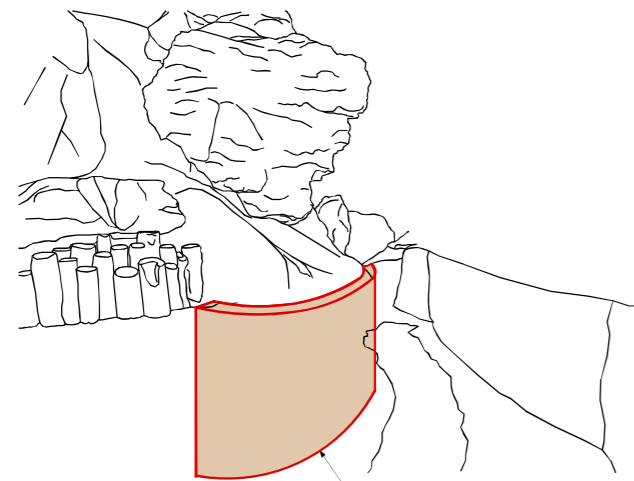
三和土護岸傾倒修理、除根処理



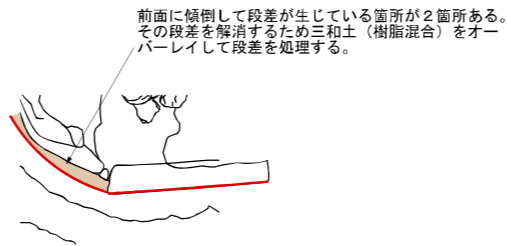
現況立面図 S=1:30



現況平面図 S=1:30



修理立面図 S=1:30



修理平面図 S=1:30



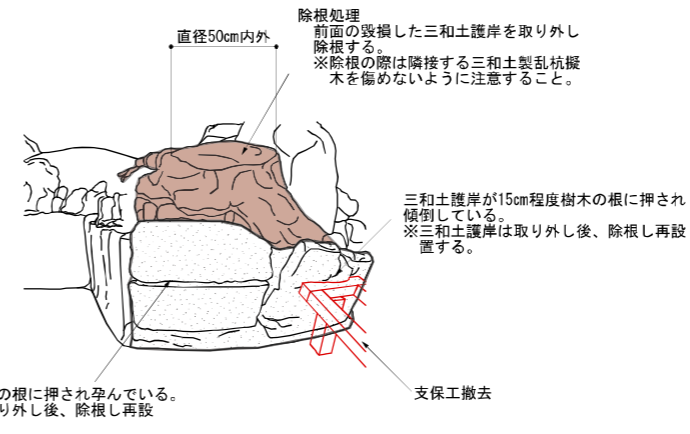
三和土護岸傾倒部(東面)



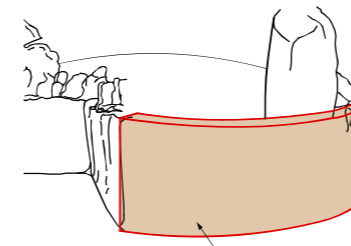
三和土護岸傾倒部(断面)



三和土護岸傾倒部(上面)



現況立面図 S=1:30



修理立面図 S=1:30



修理平面図 S=1:30



三和土護岸孕み部(北面)

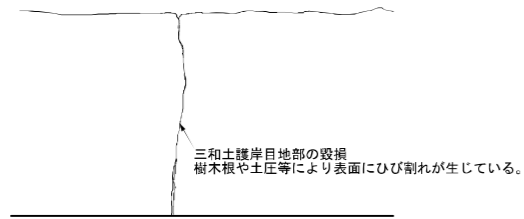


除根範囲(上面)

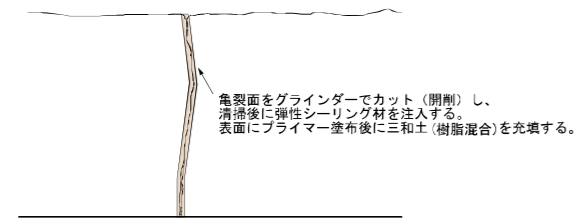
三和土護岸段差・傾倒修理

- 修理概要
三和土護岸は背面土圧や上段の石組みの荷重により三和土護岸に亀裂が生じ、断裂し前面に傾倒している護岸が確認できる。こうした護岸については、当初の位置に無理に戻すことは困難であり、これ以上傾倒が進まないように、亀裂面に三和土を増し打ちし、段差を解消する。また、据部に毀損が見られる場合は据部に増し打ちを行い強化する。なお、土圧や上段石組みの荷重がかからない三和土護岸については、脱落した三和土護岸を一旦取り外し、背面を清掃した後、再設置を行うなど状況に応じた修理を行う。
 - 修理手法
・傾倒している三和土護岸について、三和土が取り外すことができるか確認する。取り外すことが可能な場合は取り外し、傾倒の原因となっている樹木根や堆積土を除去する。
・除去できない場合は現状の三和土面を清掃及び洗浄し、傾倒によりできた段差を解消するために護岸表面に三和土（樹脂混合）をオーバーレイして段差処理を行う。
・取り外せる場合は取り外した三和土を基の位置に戻し同じようにオーバーレイ処理を施す。
 - 修理項目
清掃、洗浄、三和土取り外し、再設置、樹脂混合三和土充填など
- 6-1) 除根処理
- 修理概要
三和土護岸や石組みに影響を及ぼす樹木根について除根が可能なものは出来る限り除根する。
 - 修理手法
・三和土護岸や石組みから浸食している根が除根可能か判断する。
・除根が可能な場合は、三和土護岸や石組みを傷めないように除去する。
 - 修理項目
清掃、除根、根切り、掘削、埋戻し、小運搬など

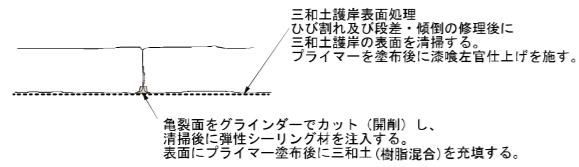
三和土護岸目地修理・表面修理



標準現況立面図 S=1:20



標準修理立面図 S=1:20



標準修理平面図 S=1:30



三和土護岸目地修理

■修理概要
護岸の立ち上がり部の三和土護岸は経年変化による土圧や樹木根などの影響により縦横に亀裂が多く確認できる。亀裂部で段差が生じていないものを対象に修理を行う。

■修理手法
・亀裂部を清掃し、樹木根が浸食している場合は取り除く。
・亀裂部をグラインダーでカット（開削）し清掃後に弾性シーリング材を注入する。
・表面にプライマーを塗布し、三和土（樹脂混合）を充填する。
※三和土（樹脂混合）についてはサンプルを作成し、強度試験・ひび割れ状況などを確認後に材料を決定すること。

■修理項目
グラインダーによる開削、弾性系のシーリング材注入、プライマー塗布、三和土（樹脂混合）充填など

3-4) 三和土護岸表面修理

■修理概要
三和土護岸面及び池底面には仕上げ層として三和土の上に漆喰が塗られていたことが確認できた。しかし現状は表面が剥離し、その痕跡を残している場所は少ない。園池に水をためる場合には防水的機能も必要のことから表面処理を行う。

■修理手法
・三和土表面を清掃し洗浄する。
・三和土表面にプライマーを塗布後、漆喰左官仕上げを施す。
※漆喰材は耐久性と防水性を付加できる材料の選定を行うが、試験施工を実施するなど段階的に検討を行い修理する。

■修理項目
清掃、洗浄、プライマー塗布、漆喰左官仕上げ

三和土製乱杭擬木・しがら擬竹・擬岩修理



三和土製乱杭擬木修理箇所(例)



三和土製しがら擬竹修理箇所(例)

三和土製乱杭擬木・しがら擬竹修理

■修理概要
三和土護岸天端面で所々に乱杭やしがら擬岸の造作物が確認できる。現存するものは侵食による風化や割れが見られ一部抜け落ち背面土が侵食している箇所も見られるが、傷みが少なく侵食している物は基本現状保存する。

■修理手法
・現存しているものについては現状保存する。
・割れが見られるものについては保存処理を施す。
・抜け落ちた箇所については現状と同等のものを復元修理する。

■修理項目
清掃、取り外し再設置、背面土補充、乱杭擬木・しがら擬竹制作など



三和土製擬岩修理箇所(例)



三和土製擬岩修理箇所(例)

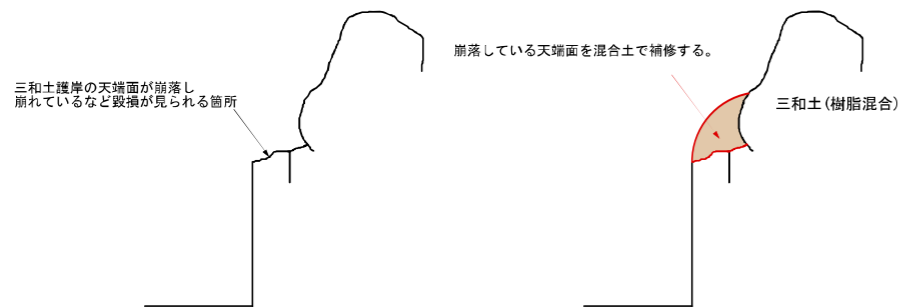
三和土製擬岩修理

■修理概要
三和土護岸天端面に所々に擬岩の造作物が確認できる。現状割れや脱落が見られ一部抜け落ち背面土が侵食している箇所もある。

■修理手法
・現存しているものについては現状保存する。
・割れが見られるものについては保存処理を施す。
・抜け落ちた箇所については現状と同等のものを復元修理する。

■修理項目
清掃、取り外し再設置、背面土補充、乱岩制作など

三和土護岸天端修理



現況断面図 S=1:30

修理断面図 S=1:30

三和土護岸天端修理

■修理概要
三和土護岸の天端に設置されている石組みの裾部には所々に三和土による化粧が確認できる。恐らく造営当初は石組み裾部は三和土護岸面に沿って三和土仕上げが施されていた事が想定できる。特に東側園池において天端面の毀損が目立つ。

■修理手法
・三和土護岸の上部の健全な天端面で毀損しているものは取り外し、背面の清掃を行う。清掃後再設置する。既に天端三和土が欠損している箇所については三和土（樹脂混合）を補充しながら石組み裾部を化粧する。
・左官仕上げで曲線状の磨り付ける。

※三和土（樹脂混合）についてはサンプルを作成し、強度試験・ひび割れ状況などを確認後に材料を決定すること。

■修理項目
三和土取り外し・再設置、清掃、天端面造作、場内小運搬など



三和土護岸天端修理箇所(例)



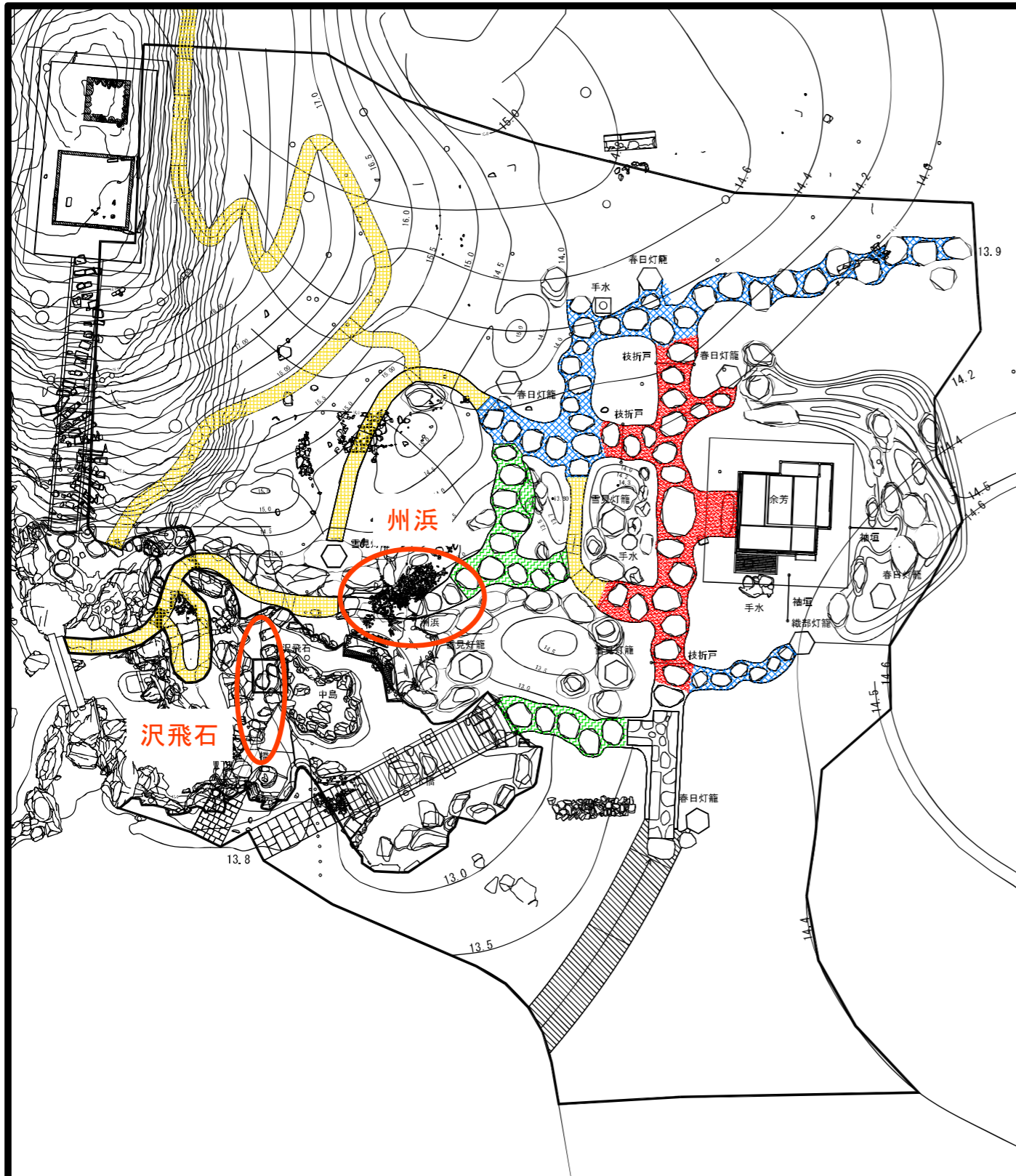
三和土護岸天端修理箇所(例)



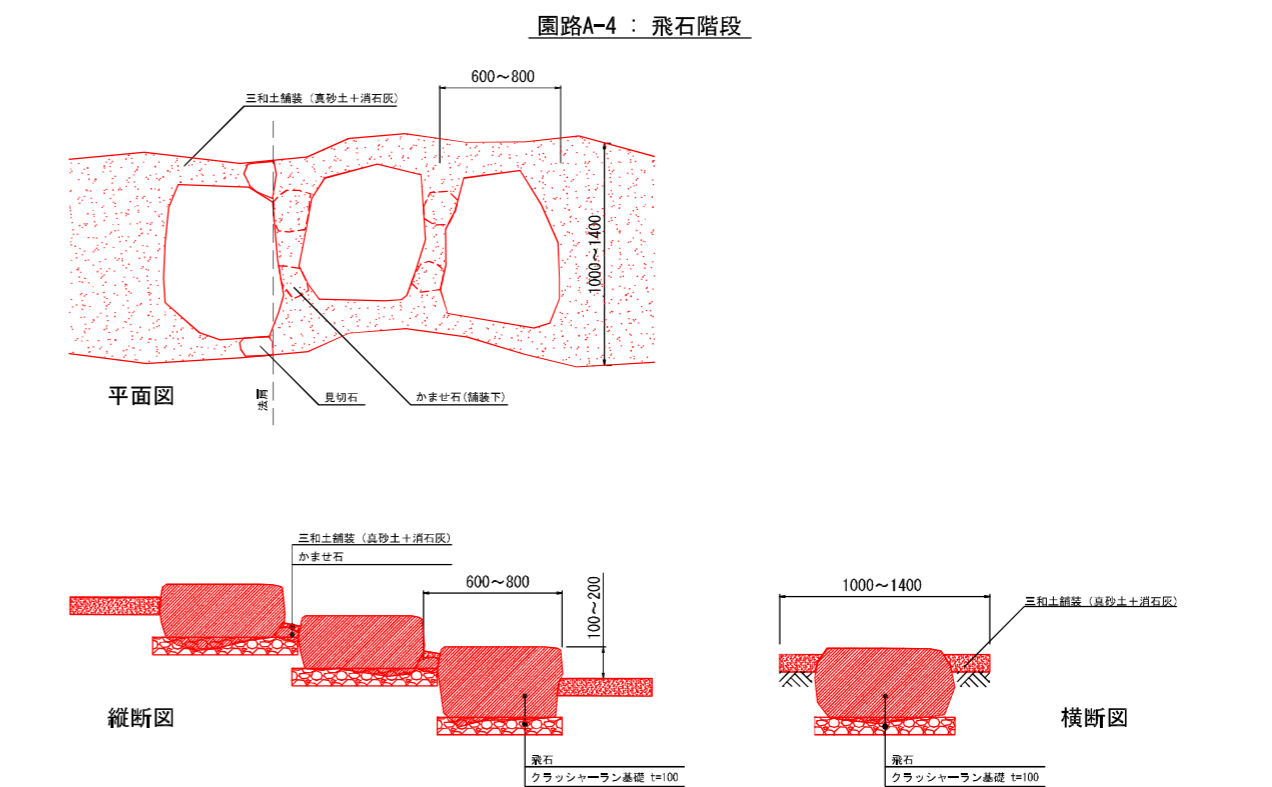
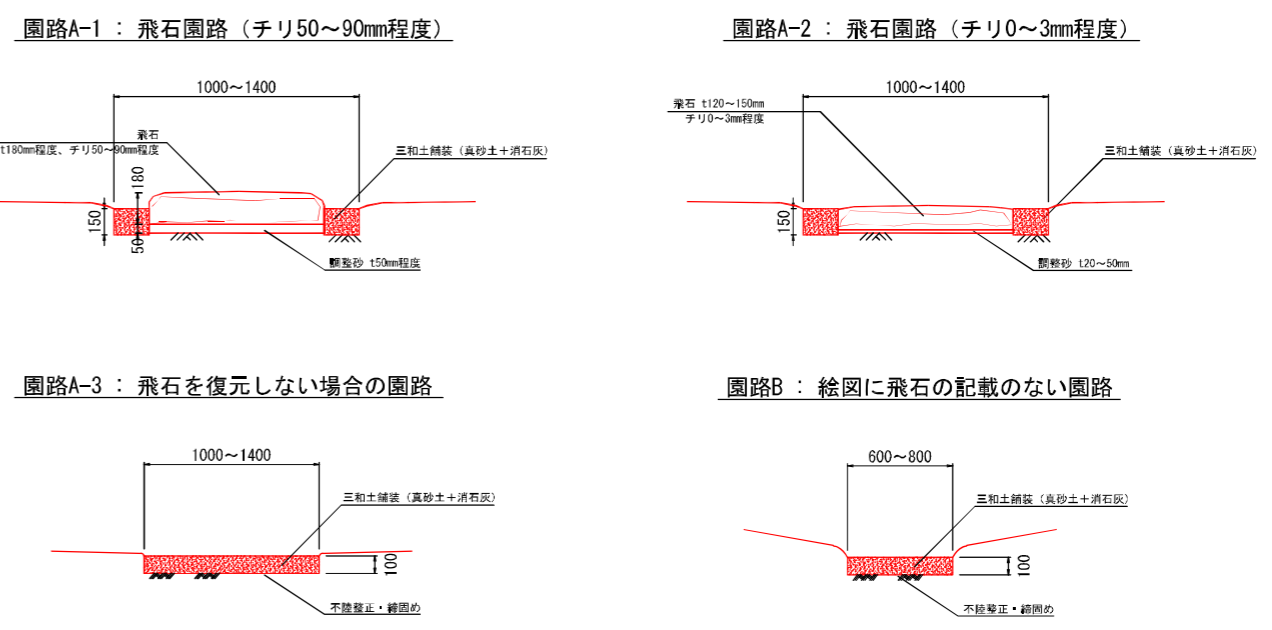
三和土護岸天端修理箇所(例)

資料2
(目次)

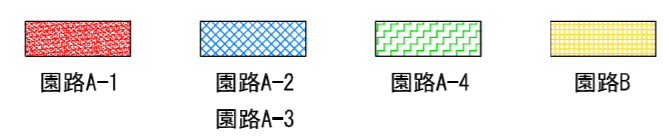
- 1 園路の構成及び飛石のチリ高と園路幅員について <資料2-1>
- 2 州浜の復元について <資料2-2>
- 3 沢飛石の修復について <資料2-3>



断面図 S=1:40



平面図 S=1:200

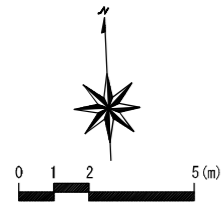


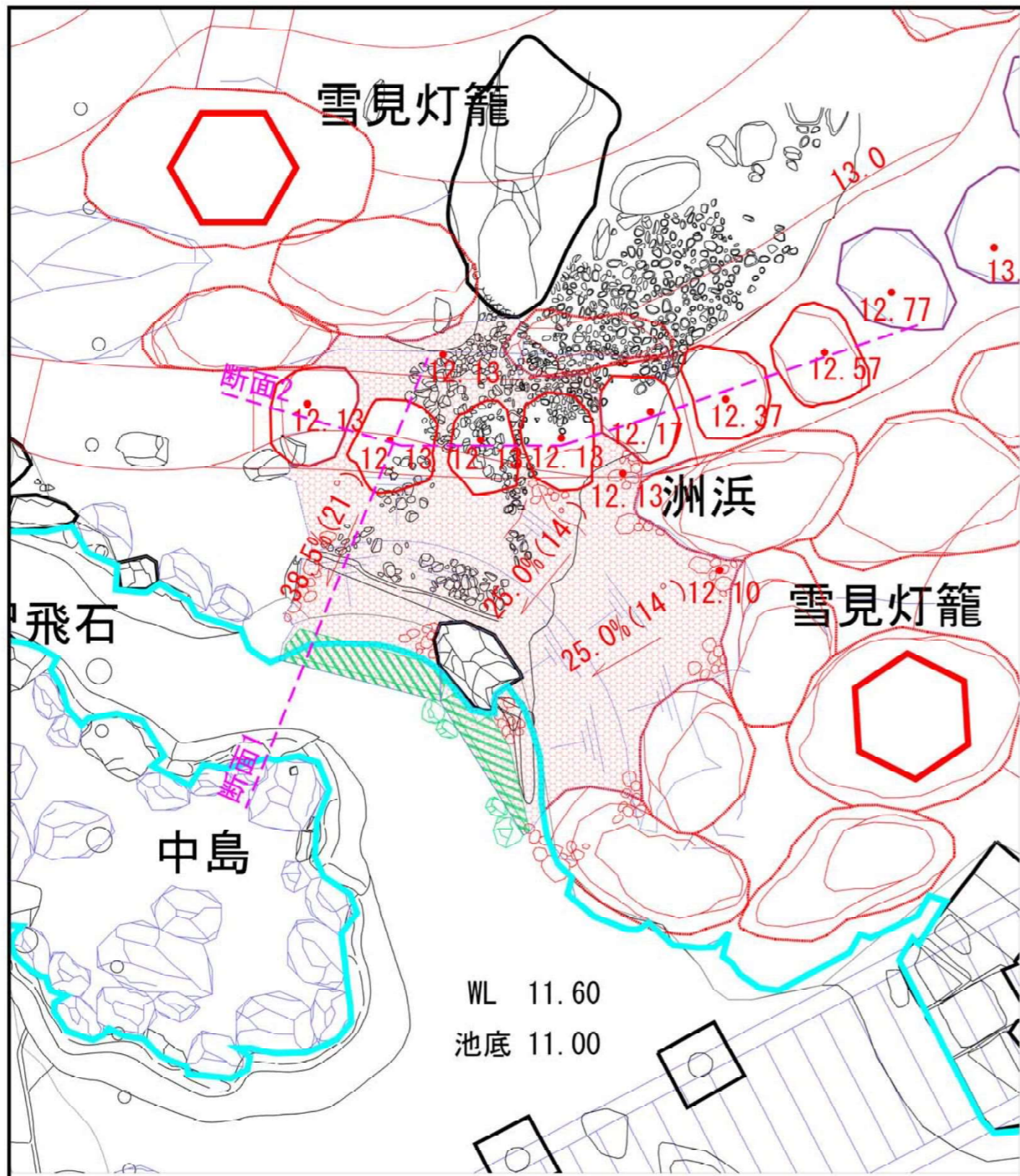
※園路A-1, A-2, A-3は委員会において協議の上、その範囲及び仕様を定めることとする
※洲浜周辺部の絵図に記載のない飛石の詳細については別途図面(資料 3-6-1)を参照のこと

※三和土舗装の配合割合については、配合の異なるサンプルを3種類程度作成し、締固め・浸食・ひび割れなどを経過観察し配合を決定すること。また施工は承認を得てから施工を行うこと。
配合割合は、直射日光を避け、雨、露を防ぐ養生の下で行い、乾燥期間については、配合内容にもよるが、2週間を標準とし、観察を行う事。

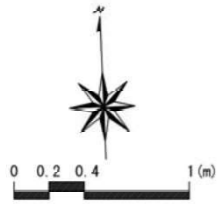
三和土舗装 材料表 1m3当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
真砂土		m ³	0.75	
消石灰		m ³	0.25	
にがり/塩化マグネシウム		m ³	0.05	

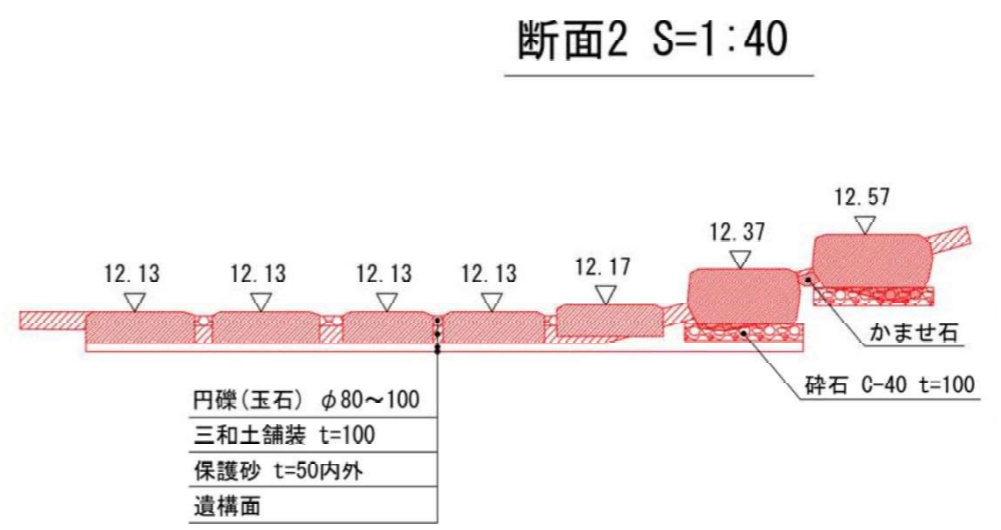
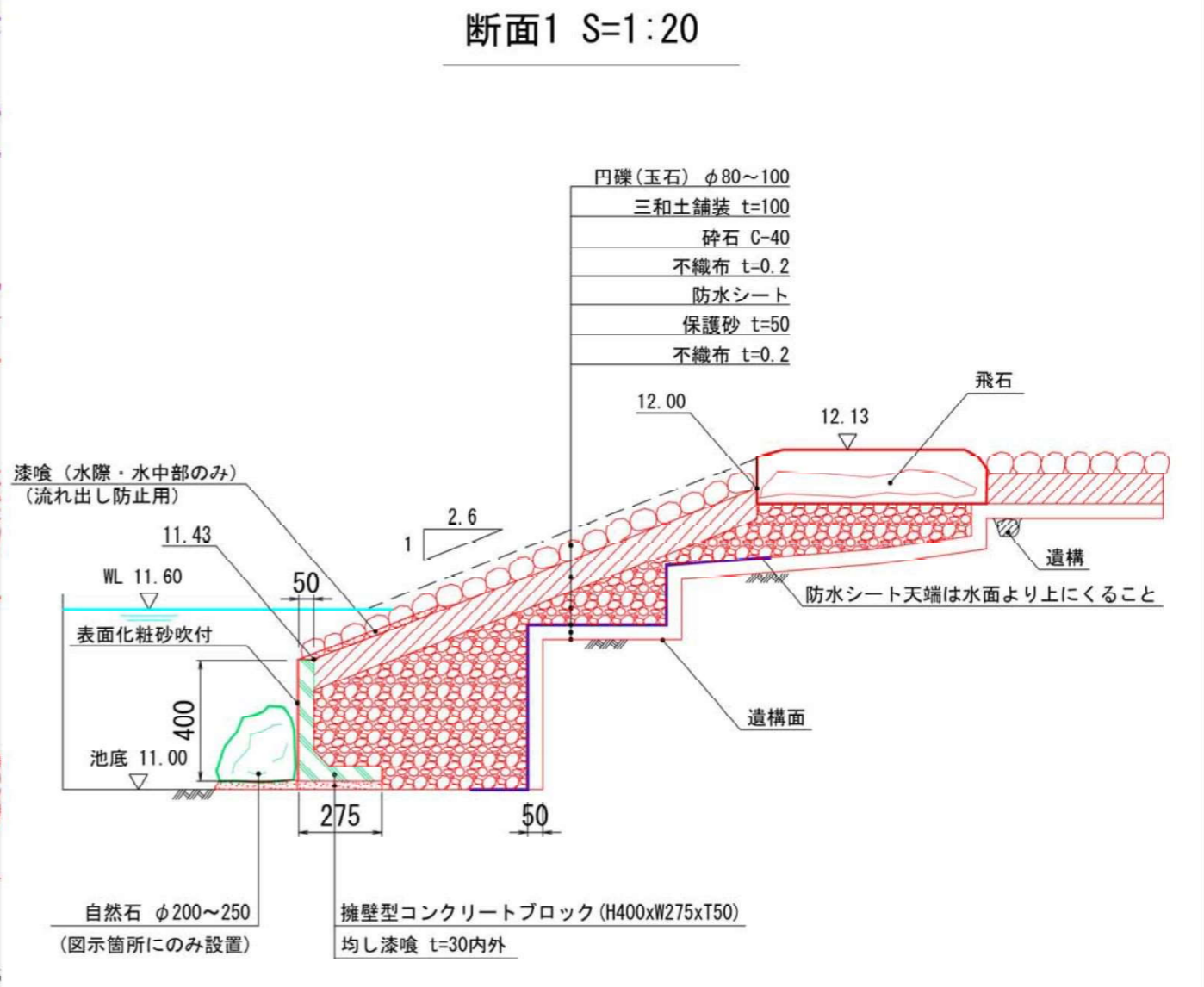


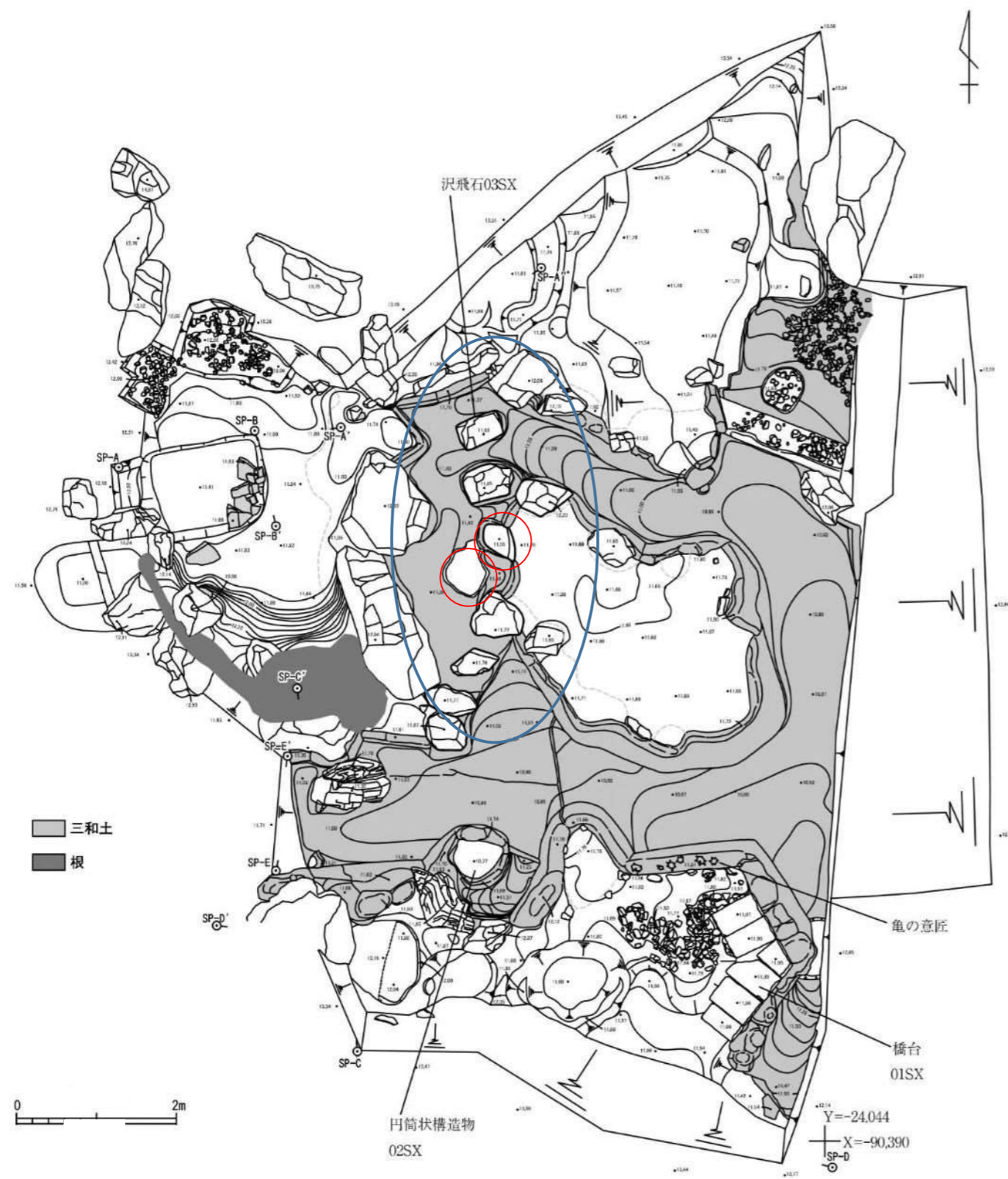


平面図 S=1:40

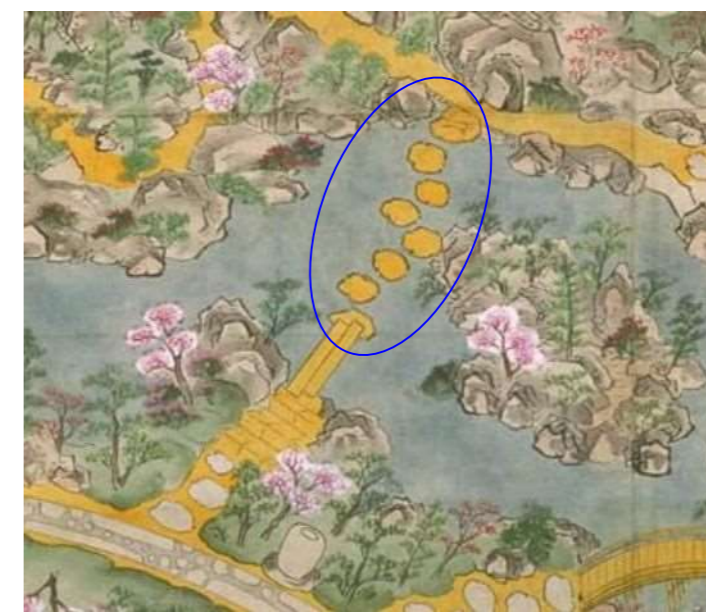


R3 計画 H29 計画 遺構





発掘調査遺構平面図



御城御庭絵図
(出典：名古屋市蓬左文庫蔵)



発掘調査時写真
(北側より撮影)



発掘調査時写真
(右側が北)